

Book Review

歯科医師・歯科衛生士のための 専門的な口腔ケア 超高齢社会で求められる全身と口腔への視点・知識

角 保徳 著



Reviewer

向井美恵 Yoshiharu Mukai
(昭和大学歯学部口腔衛生学講座)

B5判, 128頁
定価 3,570円
(本体 3,400円+税 5%)
医歯薬出版刊



本書を開いて最初に飛び込んでくるのは、本書の内容がいかになら必要とされているかを解説した「マンガ」である。超高齢社会を迎えて歯科医療に求められる多様化について、容易に理解できる緒言としての問題提起として読み取ることができ、その後を問題解決的な視点を交えながら読み進むことができる。

全体を通した特徴としては、広く使われている「口腔ケア」という言葉を「専門的な口腔ケア」と「普及型口腔ケア（一般的な口腔ケア）」に明確に分けて定義づけており、この定義に基づいて、専門的な口腔ケアの位置づけ、専門的な口腔ケアの全身への応用、局所への応用、などすべてが著わされている点である。

また、著者の専門領域からの視点から、介護領域と歯科領域の接点を「口腔ケア」に求めれば、介護に貢献できるばかりでなく、口腔ケアは介護領域と

歯科医療のみならず医療全般に広がっていく、との強い意志が感じられ、その普及の期待として医療現場における「口腔ケア」の豊富な口腔内写真を提示している。また、高齢者やその介護者に対する姿勢として、唾液の分泌機能、味覚機能、嚥下機能などの口腔機能が著しく低下している人に対しては、口腔ケアを継続しながら「食餌」を「食事」に変えていくことも歯科医師・歯科衛生士としての重要な一つの役割である、と命を支える歯科医療としての口腔ケアについて、本質的な患者さんへの対峙の心構えを記している。

医療は診断評価に基づいて行われるのはいうまでもないが、豊富なカラー写真から歯・歯肉、口腔粘膜（口腔乾燥症、口内炎、易出血性、薬剤による口腔病変）、舌（舌苔、黒毛舌、扁平舌）などの診断評価について、口腔ケアの教科書がない現状においては教科書として十二分な内容であり、さらに嚥

下、うがい、顎関節、味覚などの機能的な評価法についてもわかりやすく解説されている。また、専門的な口腔ケアの実践として種々の疾患のある13症例について初診時（ケア前）とケア後の効果を写真で示しながら、個々の疾病を意識した予後についての解説が記載されており、読者の口腔ケアを含めた歯科の治療計画の立案に大いに役立つものと思われる。また、トピックスとして口腔ケア中の死亡症例への訴訟判決についても触れられていて、口腔ケアの危機管理にも大いに役立つと思われる。

本書は、これからの社会でより良い歯科医療の提供を目指している歯科医師、歯科衛生士のみならず、本文中にある「メモ」の形で13の用語解説があり、内容を容易に理解できるような配慮もなされているため、歯学部学生や歯科衛生士関連の学生にもぜひ一読することを薦めたい。